

平成 27 年 6 月 7 日

千葉木鶏クラブ

(361 回 例会)

孔子と『論語』(第 7 回)

めくるカレンダーは、早や 24 節気「芒種」水無月(みなつき)、稲作農家にとっては恵みの梅雨入り。転じて、内外に目を向ければおだやかではないがぶれない東洋古典(論語)は心強いものがあります。

「人間知」の宝庫と言われる『論語』と『詩吟』を学び吟じながら古典に親しみ人生を語り合ひましょう。

どなたでもいつでも歓迎の千葉木鶏クラブです。

皆様のお越しをお待ちしています。

記

1. 日 時 : 平成 27 年 6 月 26 日(金)
PM 16 時 00 分 ~ 18 時 00 分

2. 場 所 : 千葉生涯学習センター ☎043-207-5811
<交通案内> JR 千葉駅東口から 徒歩 8 分 駐車場有り

3. 会 費 : 1000 円

4. 演 題

(1) 第一部 孔子と『論語』(第 7 回)

「言と行」 安岡 正篤 先生

※『致知』6 月号『論語』と二宮尊徳

寺小屋石塾主宰 岩越豊雄

(2) 第二部 『東洋学と詩吟』

指導 鈴木 岳靖 先生

岳風会

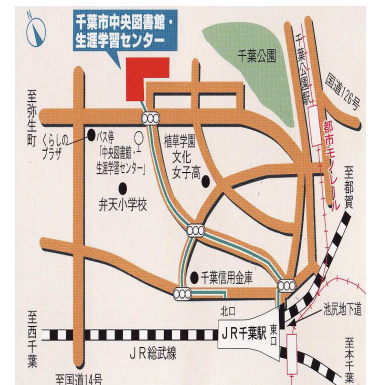
(日本詩吟学院)

追伸: 終了後、懇親会を予定しております。参加される方はご連絡をお願いします。

以上

千葉木鶏クラブ 代表兼事務局 丸島 忠夫

Email: marushima_t@snow.plala.or.jp Tel: 0475-25-1211 Fax: 0475-38-5153



平成 27 年 6 月 26 日
千葉木鶏クラブ

第 7 回 言と行

<言葉と行動>

子曰く(しのたまわく)、
君子は言にして、行に敏ならんことを欲す。 里仁第四

解釈：「知る者は言わず、言う者は知らず」(『老子』)
：「巧言令色鮮(すくな)いかな仁」(『論語』学而第一)

<自分の力を限定してはいかない> 志気をふるいたてよ

再(ぜん) 求曰く、子の道を説(よろこ)ばざるに非ず、力足らざるなりと。
子曰く、力足らざる者は、中道にして廢す。
今女(なんじ)は画(かぎ)れり。 (『論語』雍也第六)

解説：先生の説かれる道は喜ばないわけではありませんが、ただ何分にも私の力が
たりませんので行うことが出来ません。

<下問を恥じなかった孔文子>

子貢問うて曰く、孔文子回を以って之を文と謂うか。子曰く、敏にして学を好み、下
問を恥じず。是を以って之を文と謂うなり。 (『論語』公冶長第五)

解説：子貢が尋ねた。孔文子(衛の大夫)は何故に諡(おくりな)を文というのでし
ょうか。
先師が答えられた「天性が明敏であって学問を好み、目下の者にも平下って恥
じなかった。それを文と諡(おくりな)されたのだ。

<愚の礼讃>

子曰わく、甯武士（ねいぶし）、邦に道有るときは、即ち知なり。邦に道無きときは則ち愚なり。其の知は及ぶべし。其の愚には及ぶべからざるなり。

（『論語』 公冶長第五）

解説：先師が言われた。甯武士は国に道が行われている時には知者としてその才能を發揮したが、国に道が行われない時には控え目にして愚者のようであった。その知者ぶりは及ぶことができても、その愚者ぶりは及ぶことができない。

※ 『安岡 正篤』講話選集より（抜粋）